

— 2 - 4. 近代民主政の病理現象 —

●自由主義経済思想……アダム・スミス

アダム・スミス Adam Smith (1723-90)

『道徳感情論』The Theory of Moral Sentiments (1759)

人間の自然本性は「利己的」

他者と調和する個々人の利己的活動によって社会は進歩する → 私益公益論

利己性を第三者の共感によってチェックするための「公平な観察者」impartial spectator 基準

『諸国民の富』(通称『国富論』) An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations (1776)

統制経済批判。自由競争による経済の活性化。

「神の見えざる手」the invisible hand ……自然な秩序形成を理想とする考え方

夜警国家論……匡正的正義のための国家。国家の役割は防衛・司法行政・公共事業に限定される。

●レッセ・フェールlaissez-faireの光と影

アメリカの「ギルデッド・エイジ」gilded age

『金ピカ時代』Mark Twain and C. D. Warner, The Gilded Age (1873)

1870・80年代……南北戦争終了後の経済好況期

アメリカンドリーム・社会進化論・自由放任主義

アンドルー・カーネギー『アメリカ民主主義の勝利』Andrew Carnegie(1886)

富者は社会の富をみずから手にゆだねられたものと考え、その富の大部分を社会に還元しなければならない。彼は 1889 年に書いた論文の中で、このように述べ、そして文化事業や社会事業に多額の寄付をすることで、その主張をみずから実践した。彼の寄付により多くの図書館、教育研究施設、芸術の殿堂、レクリエーション施設、病院、福祉施設などが建てられ、またそれらの運営が可能になった。この時代の大事業家たちは彼の意見に共鳴し、多額の寄付をして同様の事業の振興に貢献した。彼らの寄付により、のちにすぐれた大学として名声をえるいくつもの大学が設立された。コーネル、ジョンズ・ホプキンズ、スタンフォード、シカゴなどである。(有賀他 30)

社会ダーウィニズム social darwinism

チャールズ・ダーウィン『種の起源』Charles Darwin (1859)

→ ハーバート・スペンサー Herbert Spencer (1820-1903)の社会進化論との関係

人間社会も競争を通じて進化する……「最適者生存」の法則 survival of the fittest

→ 競争の帰結(繁栄と淘汰)を肯定

政治マシーン

「機械のようによく組織されていて、選挙のさいに有権者を確実に動員できるという意味」(有賀他 59)

多くは下層民衆の中から、また酒場を足がかりとして台頭したボス(都市政治のマシーンのリーダー)はプレシント(投票区)、ウォード[市会選挙区]に多数の運動員を要する組織をさずきあげ、この組織を動かして市議会都市の多くの公職を選挙で獲得した。ボスと彼がひきいるマシーンは警官はもちろん清掃員にまでおよぶ市政府の任命権をもちいて権力をかため、また市街鉄道、ガス、電気などの公益企業にたいする営業認可、酒場の営業許可、市の清掃、道路建設・改修などの事業の発注の見返りとして、献金を獲得し、それを政治資金とした私腹をこやすためにもちいた。

他方、ボスとマシーンとは、貧困で、多くが移民である都市の下層民衆に日常的に金品を与え、彼らの就職を世話し、警察とのトラブルを調整し、彼らの市民権取得を助け、また彼らのなかの有望な若者を政治的に登用した。マシーンが強固な政治基盤を有したのは、このような初歩的な社会福祉活動のゆえであった。要するに、マシーンは異国での貧しい移民生活に直接間接に援助を与えるとともに、彼らのアメリカ社会への参入を助けたのである。その代償としてマシーンが彼らに要求したものは、彼らが母国においてはもたず、またもっていたとしても価値がなかった投票であった。(有賀他 60)

クライエントリズム clientelism

恩恵－庇護関係……地方有力者という人格に媒介された政治

利益と権益の提供 ←→ 支持

e.g. スペインのカシキスモ caciquismo (1858~90)

「利益と権益の配分というプリンシプルに従って、ハイアラーキー構造の下で共同の行動をとる、ナショナルなシステム」(篠原 69)

強い地方割拠性 ←→ 政治の中央集権化

カシーケ cacique ……地方名望家(貴族、地主、商人、官吏、軍人など)

●差別・政治参加の制限

イギリス 秘密投票法(1872)、腐敗・不正防止法(1883)。

寡頭的な社会構造……人口の2%が国民所得の60%以上を所有。

1926 女性参政権成立。

フランス ドレフェス事件(1894)

ユダヤ人の参謀本部将校ドレフェスが、ドイツへの機密漏洩の嫌疑で告発される(冤罪)。

エミール・ゾラ「私は弾劾する」

軍法会議で有罪(二度) → 大統領特赦 → 1906年、正式に裁判で無罪宣告。

アメリカ 1920年憲法第19修正成立……女性参政権。←第一次世界大戦への貢献

公民権運動(アメリカ)

第二次世界大戦

70万人の黒人が徴兵されるが、白人と別の部隊に編成される。

1954 **Brown v. Board of Education** 判決(連邦最高裁)

公立学校における人種分離教育に対し違憲判決。1896の **separate but equal** 基準を変更。

1955 バス・ボイコット運動(アラバマ州モントゴメリ)……ローザ・パークス事件

指導者マーティン・ルーサー・キング Jr. 牧師

1957 公民権法

合衆国憲法で保障された権利を侵害された個人は、直接連邦法廷に救済を求めることができる。

1963 ワシントン大行進……キング牧師演説

「私には夢がある。いつの日にか、この国は立ち上がり、『自明の真理として、すべての人は平等に作られた』というこの国の信条の真意に生きるときが来るであろう」

非暴力的な手段による人種統合の実現 ←→ 急進的な黒人解放運動(マルコム X など)

優生学 eugenics

人間行動の遺伝決定論 → 人間の遺伝的改善を意図。

〈消極的優生〉断種・結婚制限・隔離 〈積極的優生〉優秀な人間同士の婚姻など

ナチスの「夜と霧」、スカンディナヴィアの精神障害者断種政策、日本のハンセン病問題。

アメリカ……30州で断種法が成立、1924 移民制限法へ波及。

マディソン・グラント『偉大な人種の消滅』*The Passing of the Great Race* (1916)

ノルディック(北欧系ヨーロッパ人)の人種的優越を主張……人種差別的移民排斥論

—— 2-5. 民主政批判——社会主義とファシズム

ギルデッド・エイジ批判

エドワード・ベラミー『顧みれば—— 2000年から1888年を』Edward Bellamy, Looking Backward(1888)
西暦2000年に舞台設定されたユートピア小説。
計画的・合理的な生産と分配、政治を必要とせずすべての人民が豊かで幸福である社会。
階級闘争を否定、教育・啓蒙を通じた中流階級の意識変化に期待。

●初期社会主義

市民社会の無計画性を批判。社会の矛盾と貧困を克服するための思想。

オーウェン Robert Owen (1771-1858)……協同主義

ニュー・ハーモニー村(1825-28)

自給自足を原則とし、私有財産のない協同生活の村をアメリカ・インディアナ州に建設。
根絶されるべき「悪の三位一体」＝私有財産、既成宗教、愛なき結婚制度

サン＝シモン Claude Henri Saint-Simon (1760-1825)……急進産業主義

『産業者の教理問答』Catéchisme des Industriels (1823,24)

封建的軍事体制から産業型管理体制へ

産業者(製造業者・農民・商人)が法律家・役人を支配下におく「産業体制」

財政最高委員会の設置、計画経済の遂行

「すべては産業によって、すべては産業のために」

「人間の科学」の実証科学化……観察された事実に基づく科学。科学による社会の再構成。

継承……サン＝シモン主義 Saint-Simonisme

遺産相続制の廃止、不労所得の廃止、生産手段の公有……急進的社会主義への発展

ブルードン Pierre-Joseph Proudhon (1809-65)……無政府主義 anarchism

『所有とは何か』Qu'est-ce que la propriété? (1840)

「所有とは窃盗である」……正義に反する特権階級の所有形態を攻撃

利己的な経済活動・個人の自由を抹殺する国家権力の双方を攻撃

労働者の自由な連帯によって中央政府を不要とする体制……アナキズム

●マルクス主義Marxism・共産主義communism

カール・マルクス Karl Marx (1818-1883)

生産手段の私有に基づく搾取 → プロレタリアートの「絶対的窮乏化」

国家……特権階級の権力装置

プロレタリアートと革命

「失うべき何物をも持たず、奪うべき一切のものを持つ」労働者による資本主義の打倒

「市民社会に属しながらも市民社会に属しない階級、人間性の完全な喪失であるが故に人間性の完全な再獲得によってのみ自分自身を獲得できる階級」(ヘーゲル法哲学批判序説)

『共産党宣言』Manifest der Kommunistischen Partei (1848)

「万国のプロレタリアート団結せよ」

結合した諸個人の力に自然成長的な社会発展を従属させる。従来の生産関係の全体的変革。

解決策：生産手段の社会的所有(土地・銀行・運輸機関・工場の国有)

「各人の自由な発展が万人の自由な発展の条件であるような結合社会 Assoziation」と国家の死滅

レーニン Vladimir Il'ich Lenin (1870-1924)

『帝国主義論』 Imperializm kak vyasshaya stadiya kapitalizma (1917)

プロレタリアートの理念化……現実の工場労働者は必ずしも革命的ではない
プロレタリアートのもっとも先進的で自覚的な部分、全体を代表する指導者としての「前衛政党」
ロシア革命(1917)とソヴィエト政権の樹立「すべての権力をソヴィエトに」

抑制を欠く権力の暴走

ソ連 スターリン独裁(1922~53)

農業集団化に伴い 350 万人が死亡、その後の粛清で 1000 万人が処刑・獄死？

中国 大躍進(1959~60)

農業集団化の失敗、2 年間で人口が 4000 万人減少(餓死などと流産・死産が各 2000 万人?)
文化大革命(1962~73)

劉少奇・鄧小平らに対する権力闘争。犠牲者数十万人、被害を受けたものは億単位？

カンボジア

クメール・ルージュによる虐殺(1975~79)

100~300 万人を殺害？ 国民の 1/4~1/5 に相当。

社会主義内部でのマルクス主義批判

ベルンシュタイン Eduard Bernstein (1850-1932)……絶対的窮乏化の虚妄

少なくとも西欧先進国では貧富の差の極端な拡大は見られない。

プロレタリア革命に頼らない社会主義……議会内での社会民主主義への転換

グラムシ Antonio Gramsci (1891-1937)……ヘゲモニー egemonia

社会的・文化的組織を通じた知的・道徳的指導、それによる被支配階級の同意＝ヘゲモニー

国家権力をめぐる「政治革命」 < 市民社会をめぐる「社会革命」……構造改革路線

フェビアン社会主義 Fabianism (1918、イギリス労働党綱領)

国民の最低生活水準の保障

産業の民主的管理

財政における革命的変革

財政収入の公共財のための使用 → 「福祉国家」

●全体主義とファシズム totalitarianism / fascism

イタリア・ムッソリーニ政権(1922-43)

ドイツ・ヒトラー政権(1933-45)＝ナチズム Nazism

カリスマ的リーダー……何物にも拘束されない権威の源泉 ←立憲政治批判

一元的支配、多元主義の否定 ←議会政治批判

強制的同質化 Gleichschaltung ……地方自治の破壊、中間団体の解消

宣伝・恐怖・暴力などを通じた、指導者原理による社会の再編成

「民衆の支持による独裁」という形式

ある種の社会主義 cf. NSDAP 国家社会主義ドイツ労働者党……ナチスの正式党名

特権階級と共産主義者、双方の排除

ナショナリズム・民族主義との結合 ← 大衆の支持

ハイエク Friedrich August von Hayek (1899-1992)……自生的秩序

計画的理性に基づく統制経済 ↔ 自発性と共感に基づく自由主義経済

民間企業の自発性による市場経済＝自生的秩序を尊重。

『隷属への道』The Road to Serfdom (1944)

ナチズムは反自由主義・社会の計画化という側面で社会主義と共通。

計画経済＝全体主義 対 市場経済＝自由主義という対立軸。